

2022年2月発行

# 安房普及だより

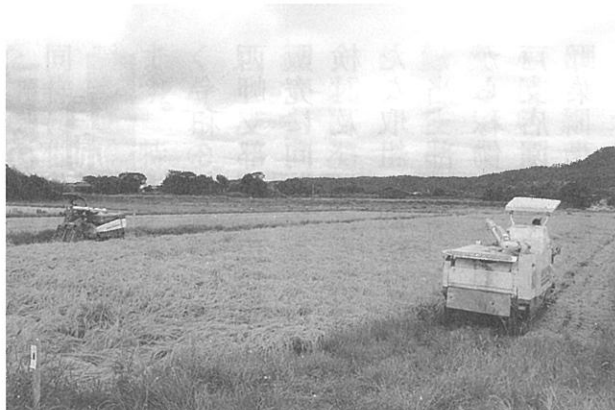
〒294-0045 千葉県館山市北条402-1 TEL:0470-22-8132 FAX:0470-22-0097  
ホームページアドレス <http://www.pref.chiba.lg.jp/ap-awa/index.html>  
発行:安房農業事務所改良普及課・安房農林業振興協議会普及事業部会



水稲の移植



区画整理されたほ場



水稲の収穫



鴨川七里®の栽培

整地工事後で肥培管理が難しい中、播種・定植・出荷調整などを組合員がお互いに協力しながら作業しています。今後は、効率的に作業ができるよう農地を集積し、ライスセンターの建設も予定されており、地域の担い手として期待されています。今後、当事務所では集落営農の取組を支援していきます。

（農）大八営農組合と（農）貝渚営農組合では、様々な集落営農活動が始まりました。水稲栽培のほか、枝豆の在来品種「鴨川七里®」、食用ナバナ、麦などの栽培に取り組んでいます。

鴨川市大里・八色・貝渚地区では、ほ場の整地工事66haが完了し営農組合の活動が本格化しています。

## 集落営農への 第一歩！

## 緑肥を活用した 土づくりにも 挑戦しませんか？

安房地域では、堆肥等の有機物施用量の減少や画一的な化学肥料の施用によって地力が低下しているほ場が散見されます。

地力が低下すると、農作物が健全に生育しなくなり、収量の減少につながります。

そこで今回、緑肥の活用を御紹介します。緑肥には栽培する種類によって、次のような効果が期待できます。

- ① 土壌物理性の改善  
(保水性や透水性の向上)  
例：ソルゴー、セスバニア等
- ② 土壌化学性の改善  
(土壌保肥力や肥沃度の向上)  
例：レンゲ、ヘアリーベッチ等
- ③ 土壌生物性の改善  
(土壌病害や有害線虫の軽減)  
例：マリーゴールド等

また、県内では、水田転換



マメ科緑肥 (セスバニア)

畑等の排水不良ほ場において、深根性のマメ科緑肥を活用した排水対策を行う生産者も増えています。

今年度、当事務所では、土壌の地力向上や有害線虫対策を目的として、マメ科緑肥を活用した実証試験を実施しています。結果については、エダマメ栽培講習会で情報提供をする予定です。

緑肥を活用した栽培や土づくりに御興味のある方は、当事務所まで御相談ください。

## 「西岬のひまわり」の

### 有利販売を 目指した取組

令和3年度にJA安房花卉部西岬支部が、ひまわりの有利販売に向けて行った、切り前検討及び日持ち試験などの新たな取組を御紹介します。

当支部では、令和3年1月

から稼働している「JA安房神戸支店園芸振興拠点センター野菜・花き集出荷施設」の予冷库を利用し、セリ2日前出荷に取り組んでいます。集出荷を従来よりも1日早めることで、出荷情報がより早く市場に届くようになるため、市場で販売期間が長くなり、セリ前の取引が有利になります。

しかし、ひまわりは時期や品種、ほ場条件によって、市場着荷時の開花状態がばらつき、クレームの原因となりやすい花です。

そこで、市場の協力のもと、当支部にてセリ2日前出荷

切り前表を作成したほか、観賞日数などの品質を調べるための日持ち試験を実施しました。切り前表を参考に収穫すること、出荷が早まっても、従来品と同じ開花状態の品を販売できるようにしました。また、日持ち試験では、従来品と同等の観賞日数を確保できました。

当事務所では、引き続き高品質な「西岬のひまわり」を安定して販売するための取組を支援していきます。



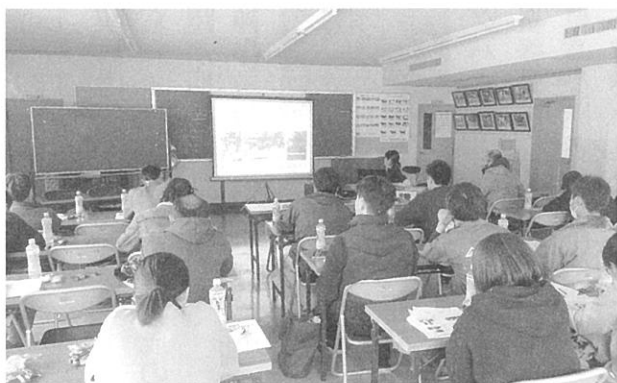
作成支援した切り前表

## 若手酪農家グループ勉強会「フレッシュユマンセミナー」

安房地域で新規就農した畜産後継者を対象として、畜産の基本的な技術を学び、地域の畜産農家や関係機関との交流の場として活動している「フレッシュユマンセミナー」について御紹介します。

安房地域は酪農発祥の地であり、県内の全酪農家戸数の約2割に当たる101戸の酪農家があります。担い手の減少や高齢化によりその戸数は年々減少しています。その中で、安房地域内で新規就農した畜産後継者に対して、仲間を増やし、より早く地域に溶け込み、やりがいと目標を持って働いてほしいという地域の酪農家の思いから関係機関と連携し、開催しています。

活動では基本的飼養管理技術を身に付けるための技術講習会として、お産管理や理想



育成牛管理講習会の様子

の牛群を目指すための種雄牛選定、育成牛管理のポイント、管内の牧場視察を実施し、作業方法の効率化や飼養管理技術の向上に繋がっています。

当事務所では引き続きセミナー生一人ひとりの技術向上や人脈作りを支援し、安房地域の酪農発展に向けて活動していきます。

## 水稲育苗における細菌病対策

近年、春の高温により水稲育苗期間中に病気が多発しています。特に細菌病は、高温多湿条件で発病しやすい病気で、坪枯れや立ち枯れ症状を引き起こします。発病後は治療することができず、移植をしても欠株となります。そこで、育苗期における細菌病の防除方法を紹介します。

まず、種子消毒や用土消毒は、細菌病に登録のある農薬を用いて防除しましょう。農薬は、ラベル等を確認し、登録内容を遵守してご使用ください。

次に浸種・催芽時の水温管理です。浸種は、水温が20℃以上だと細菌病が発生しやすくなるので、10～15℃で行います。特に、4月上旬以降の暖かい時期は注意が必要です。同様に催芽温度も30℃以上にならないようにしましょう。



もみ枯細菌病の様子

播種後も温度管理が重要となるため、ハウス内に温度計を設置し、高温を避けましょう。無加温出芽では、3～5日間被覆資材を被せ、昼は20～30℃、夜は10～20℃に調節します。芽が出揃ったことを確認したら被覆資材を剥がし、緑化を行います。その後の育苗では、ハウス内の気温が30℃以上にならないようにこまめに換気し、かん水は朝・昼のみ行いましょう。

細菌病の対策についての詳細等は、当事務所にお問い合わせください。

### 指導農業士 農業士 の紹介

地域の農業後継者の育成に  
取り組む農業者を指導農業士、  
地域農業をけん引する青年農  
業者を農業士として、それぞ  
れ知事が認証しています。

#### 本年度の指導農業士認証者

早川 善行氏 (館山市)



ストック等  
の花き経営を  
しています。  
令和元年房総

半島台風では、出荷組織の長  
として産地の早期復興に尽力  
し、また、県内系統共選では  
初のセリ2日前出荷を導入さ  
れました。

鈴木 浩仁氏 (南房総市)



カーネーシ  
ョン専作の花  
き経営をして  
います。自身

が特許を取得した生産技術を

活用し、ほかにはない大輪カ  
ーネーションのブランド化を  
実現されました。地域では頼  
られる存在で、後進育成の活  
躍が期待されます。

神作 明良氏 (南房総市)



安房郡市で  
一早く導入し  
たフリースト  
ールミルキン

グパーラーシステムによる酪  
農経営をしています。地域の  
農業後継者の育成に熱心であ  
り、小中学校の職場体験を受  
け入れる等、社会教育活動に  
も貢献されています。

御子神 昭則氏 (南房総市)



食用なばな  
を主体とした  
経営をしてい  
ます。生産体

系の機械化を進めるとともに、  
今春取得予定であるJGAP  
の認証による就業環境の整備  
等を行い、地域の雇用創出や  
人材の育成に取り組まれていま  
す。

#### 本年度の農業士認証者 加藤 隆一氏 (館山市)



いちご及び  
メロンの経営  
を行っていま  
す。天敵製剤

等を利用したIPMに取り組  
むとともに、環境制御技術を  
取り入れるなど積極的に新技  
術を導入しています。今後の  
地域の担い手として活躍が期  
待されます。

#### 受賞者紹介

安房農林業振興協議会では  
安房地域の農林業振興に功績  
のあった方を表彰しました。

#### 安房農業賞

- 満田 清氏 (鴨川市)
- 早川 光樹氏 (南房総市)
- 鈴木 一男氏 (鋸南町)
- 植松 芳幸氏 (鴨川市)
- 高梨 裕市氏 (鴨川市)
- 岡本 秀和氏 (南房総市)
- 折原 利明氏 (南房総市)

#### 安房農業奨励賞

農業経営体育成セミナー  
令和4年度  
新規受講者募集

安房地域に新規に就農され  
た、おおむね45歳までの若手  
農業者を対象としたセミナー  
を開催します。

毎月1〜2回程度の講義や  
実習、視察研修等により、農  
業経営に関する知識や技術に  
ついて3年間かけて段階的に  
学ぶカリキュラムです。

令和3年度は27名の方が受  
講しています。

農業に取り組む同世代の仲  
間と交流しながら、楽しく学  
んでみませんか。

5月下旬頃の開講に向けて、  
やる気のある新規受講者を募  
集しています。

お問合せ・申し込みは当事  
務所までご連絡ください。

また、お近くの若手農業者  
の方にも是非お知らせくださ  
い。